

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	50人	算数	50人	理科	50人
第5学年	国語	49人	算数	49人	理科	49人

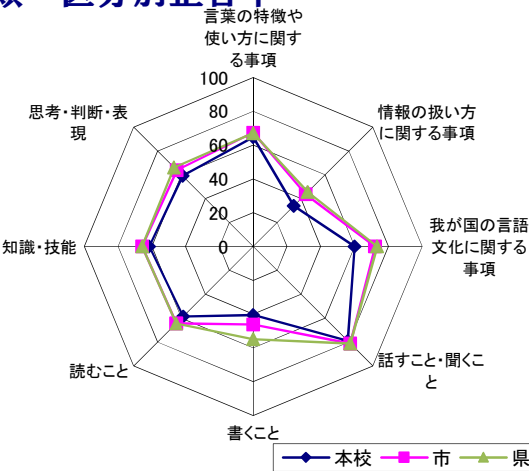
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	64.7	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	34.0	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	60.0	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	79.0	81.2	81.2
	書くこと	40.5	46.2	54.9
	読むこと	58.5	64.3	64.5
観点	知識・技能	61.5	65.7	65.7
	思考・判断・表現	59.1	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

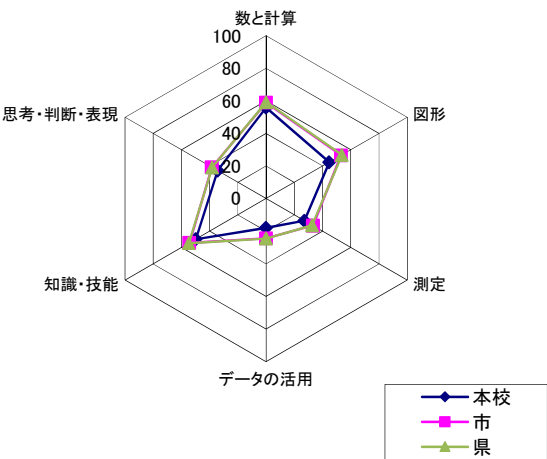
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○漢字を正しく読んだり、主語と述語の組み合わせとして適するものを選んだりすることがよくできている。音読を繰り返したり、文の組み立てについて低学年から丁寧に学習してきたりした成果だと思われる。 ●対義語を選んだり、漢字を適切に書いたりすることに課題が見られる。	・漢字を読むことには、十分な成果が見られたが、書くことに対して課題が見られるので、作文の練習をする際にその語彙だけではなく、その漢字を使う学習で習得させたい。 ・漢字や言葉を教える際、一緒に対義語にも触れさせるようにすることで、多くの言語に触れさせる。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●例文で用いられた「うすい」の意味として適するものを選ぶ問題の正答率が低く、言葉の意味を正しく理解することに課題が見られる。	・普段の授業や自主学習の中で、言語の意味や使い方を学ぶ。また、その言語を作文することで活用の幅を広げ、言語の取得を図る。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●へんとつくりを組み合わせた漢字の理解について課題が見られる。	・新出漢字を学ぶ際に、部首や構成等を考えさせることで、漢字に対しての意識を高めるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○意見について自分の考えをまとめることは、よくできている。 ●適切な発言を選択する問題では、要約することができず、課題が見られた。	・教室に「話し方の例」のマニュアルを掲示し、授業の中で意見とその理由を話す学習を取り入れていることの成果が出たと考える。今後も、話し方の型を身に付けさせたい。 ・内容を捉え、正しい言葉で要約する学習が不慣れなため、普段から多くの言語に触れさせ、活用できるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●無回答率が高く、さらに指定された段落構成で文章を書くことに対しての課題が見られる。	・条件に合わせて文章を書いていくことを苦手とする児童が多いため、書くことに慣れる必要があると考える。朝の学習等で自分の考えを書くことに慣れさせ、その後、段落を分けて書く等、正しく作文できるよう指導する。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○説明文において、適切に段落構成を理解することができている。授業の中で段落相互の関係や叙述に基づいた読解を適切に指導してきた成果が表れている。 ●文章の要約を読み、空欄に適する語を書き抜く問題での正答率が低い。	・物語を読む際に、文中からではなく、自分の気持ちや経験等から答えを導く児童が多いと考える。文章をよく読み、文中から答えを見付ける訓練が必要である。 ・説明文において、文章の内容を適切に説明した文を選ぶ学習や文章の要約する学習に不慣れである。普段の学習に、話を聞いたことや読んだ内容を要約する学習を取り入れていきたい。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	55.9	58.9	59.2
	図形	44.7	53.0	53.7
	測定	27.0	33.1	32.6
	データの活用	18.0	24.4	24.6
観点	知識・技能	49.8	54.3	54.7
	思考・判断・表現	34.3	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

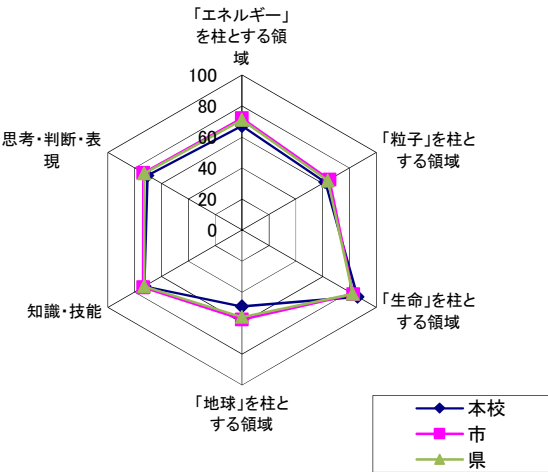
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○2けた÷1けたの計算は、よくできている。余りのない割り算は定着している児童が多いと考えられる。 ●大きな数の表し方について正しいものを選ぶ問題では、課題が見られた。	・大きな数のしくみが十分には定着していないので、数直線や位取り表を活用して、再度定着を図る。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○二等辺三角形の性質に関する問題は、よくできている。授業の中で実際に二等辺三角形を作るといった具体物を用いて授業を行っている成果が表れている。 ●円の性質を利用して、正三角形を作図する問題での課題が見られた。	・コンパスを使う意味を理解し、正しい使い方を定着させるとともに、授業の中でコンパスを使って、作図等を行う学習を充実させる。
測定	平均正答率は、市の平均より低い。 ○はかりの目盛りを読みとり、重さを答える問題は、よくできていた。授業ではかりで量る経験をしたことが、定着につながっていると考えられる。 ●地図から2つの道のりを読みとり、差を求める問題に課題が見られた。	・地図から道のりを正しく読み取れていないので、道のりの計算の仕方や正しい単位の変換ができるように様々な問題に取り組みせ、習熟を図る。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ●棒グラフの特徴と利点を理解し、適切なグラフを選んだわけを説明する問題に課題が見られた。	・複数の棒グラフをあわせた読み取りが十分には定着していないので、複数の棒グラフから数量や目盛りの大きさを読みとる類題に取り組みせ、理解を深める。 ・身の回りの事象について表やグラフを用いて考察する活動を通して、複数の棒グラフを組み合わせたグラフの良さに気付かせるようにする。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	67.2	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	62.0	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	86.0	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	49.3	57.7	56.2
観点	知識・技能	72.7	73.8	72.8
	思考・判断・表現	70.5	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○音の大小と震え方の違いについて実験の結果について当てはまる言葉を選ぶことはよくできている。 ●実験の結果から箱の中の見えない導線のつながり方を推測することに課題が見られる。	・児童全員が個別に実験をし、実験の結果を体感できるようにすることで理解を深めさせる。 ・根拠のある予想を立ててから実験・観察を行い、予想と結果を比較する活動を取り入れることにより、実験の結果から実験方法や内容について推測できるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○形を変えても重さは変わらないことについて理解しているかどうかみる問題は、よくできていた。 ●体積が同じでも種類によって重さが違うことを理解することに課題が見られる。	・理科の授業に留まらず、同じ大きさでも物によって重さが違うことを生活体験からも考えられるよう授業を行うとともに、日常生活の中で起こる現象の原因を自分の言葉で分かりやすく説明する活動を取り入れる。 ・教科横断的な視点に立ち、理科以外でも表と関連付けて考える学習を意識的に取り入れていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○モンシロチョウの体のつくりについては、よくできている。昆虫に対する興味が強い児童が多いため、しっかりと理解できていると考えられる。 ●植物の育ち方の記録から分かることを選ぶ問題には課題が見られる。	・正しいことを述べていても、資料には載っていないといった判断を惑わせるような記述があると、正答率が下がってしまう傾向にある。観察する物の差異点や共通点を見いだすことができるようさせるとともに、どの情報が大切なのか選ぶ学習を行っていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○影のできる向きと影踏みで逃げる方向について選ぶ問題はよくできている。日常生活で実際に経験している事象であるため、学習内容を定着できていると考えられる。 ●太陽が動く方位を選ぶことに課題が見られる。	・太陽は時計回りに動いているように見えるという知識のみで回答する傾向が高かった。方位が生活経験として身に付いていないようである。簡易的に教室に方位を示す掲示物を設置するなど、方位の感覚が身に付くように繰り返し指導していく。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題の量はちょうどよいと思う」、「学校の宿題はやりたくない内容だ」、「学校の宿題は自分のためになっている」のそれぞれの設問に関しては、肯定的割合は90.4%、71.2%、94.2%と県と比較して高いことから、家庭学習の必要性を理解した上で習慣化が十分に図れていると思われる。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」の設問に関しては、肯定的割合は86.5%、88.9%と高いことから、学習意欲の高さや、探究的に学習に取り組む意欲的な姿がうかがえる。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的割合は、96.2%と非常に高く、学習の必要感を十分に感じていることが分かる。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の設問に関しては肯定的割合が65.4%と低く、学習に意欲的であったり、必要感を感じていっても、実際の行動に結びついていない現状がうかがえる。分かる授業・楽しい授業を心掛け、行動につなげたい。

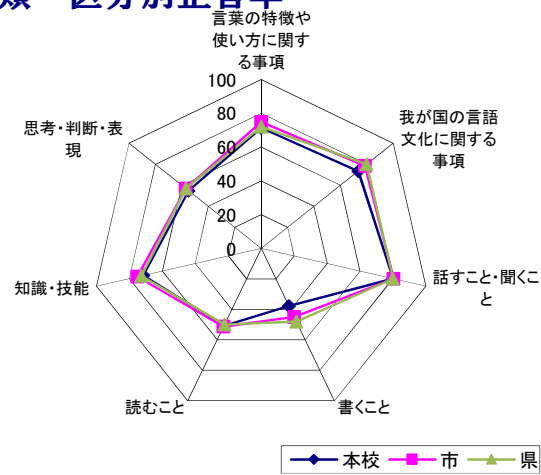
●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定的回答は59.6%と低い。他者貢献をしたいと思いつてもできない現状が見て取れる。児童一人一人の自己有用感を高める学級経営を行う必要がある。

○「自分には、良いところがあると思う」の肯定的回答は82.7%と高いことから、自己肯定感が高めの児童が多いことが分かる。他者から認められているという認識をもてば、自己有用感につながるものと思われる。しかしながら、逆に言えば17.3%の児童は良いところがないと考えているということなので、そういった児童にも自信をもてるように個別に声を掛けたい。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.4	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	73.5	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	80.1	80.4	80.0
	書くこと	37.8	45.1	48.0
	読むこと	50.8	51.3	50.0
観点	知識・技能	71.6	75.2	72.8
	思考・判断・表現	54.9	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

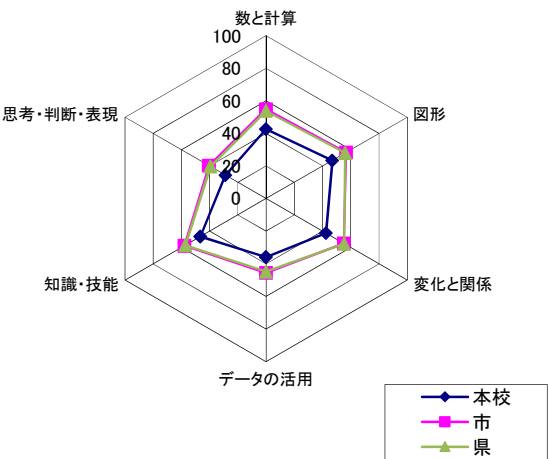
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○漢字を正しく読むことはよくできている。音読を繰り返してきたことで定着してきていると考えられる。 ●漢字を正しく書くことには課題が見られた。送り仮名を正しく書けていなかった。 ●文の中での修飾語・被修飾語の関係を正しく理解できていない。	・朝の活動の時間を活用し、漢字の書き取りの練習を重ねたり、小テストを実施したりすることで漢字の定着を目指していく。さらに、物語文や説明文を書く際には、主語・述語・修飾語・被修飾語といった単語同士の関係をしっかり押さえながら文を読むように指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「頭をひねる」という慣用句の意味を理解できている児童は、73.5%であった。市の平均より低かった。	・多くの言葉に触れる機会を意図的に設けたり、授業の中で国語辞典を引くことを行ったりする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えたり、話合いの目的に合わせた適切な自分の考えをまとめたりすることは、よくできている。話を適切に聞き取る力が付いている。 ●参加者の発言を聞き取り、聞き取った内容を決められた文字数でまとめることに課題が見られる。	・話の内容については聞き取る力は付いているが、聞き取ったことをまとめることに課題があるため、話合い活動において司会の役割の中にこれまでの発言をまとめることを入れたり、聞き取ったことを書いたりする活動を行ったりする。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○全く何も書かないという児童は、市の平均より少なかった。授業の最後に振り返りを文章で書くことを続けてきた成果が表れた。 ●指定された条件どおりに書くことに課題が見られた。	・段落に分けたり、文字数を設定したりして、条件に合わせて文章を書く習慣を付けるため、朝の活動で取り組んでいる作文において条件を設けて書く練習を行う。
読むこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○物語文において登場人物の気持ちを読み取ったり、説明文において段落相互の関係を適切に捉えたりすることはよくできている。教科書教材の読み取りを授業で大切にしている成果だと考えられる。 ●物語文において登場人物の気持ちの変化を想像し、指定された言葉を用いて表現することに課題が見られた。 ●説明文では、文章全体を読んだ上で解答する問題に対応することができていない。	・授業で、物語文を読み取る際には叙述を基に登場人物の気持ちを読み取っていく学習で文字数を指定したり、説明文を読み取る際にはキーワードとなる言葉を説明する活動を入れたりすることで、文章全体から登場人物の心情やキーワードを捉える活動を取り入れていく。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	42.7	54.9	53.7
	図形	46.9	56.6	56.1
	変化と関係	42.4	55.1	55.2
	データの活用	35.9	45.5	44.8
観点	知識・技能	46.7	57.8	57.2
	思考・判断・表現	28.9	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

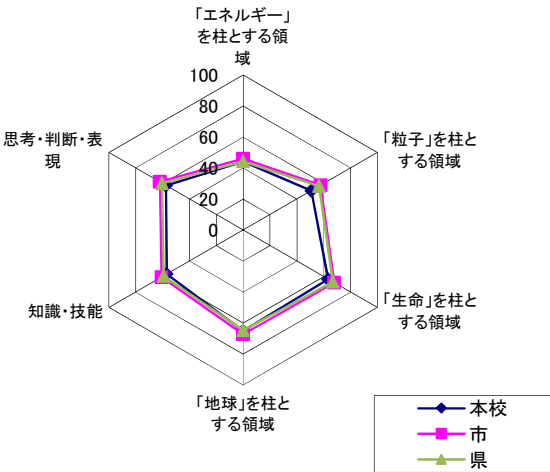
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ●小数の仕組み、四則混合の計算順序に課題が見られた。	・ある小数の値を考える際に、0.1や0.01を基に考えると、何個分に当たるのかという小数のしくみを理解させる。数の学習の際には、様々な見方ができることを繰り返していく。 ・＋、－、×、÷の符号が混ざった式の計算の順序を、類題に取り組ませ、理解を深める。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○立方体の展開図についてはよくできている。実際に、展開図を基に立方体を組み立てるといった具体物を用いた操作を行うことにより理解が深まっている。 ●面積の求め方について、示された求め方を基に、正しい式を選ぶことができていなかった。	・示された求め方をきちんと理解できるようにするため、授業の中で他者が立てた式を説明する活動を取り入れたり、面積の求め方を定義化する際になぜその式になるのか具体物を用いながら理解させることで、定着できるようにする。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ●伴って変わる2つの数量の関係を適切に式に表すことに課題が見られた。	・伴って変わる2つの数量を、○や□に置き換えた際に、それぞれ何を表しているのかを読み取らせる類題に取り組ませることで、文字式や□・○といった記号への理解を深める。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ●二次元の表の意味を理解し、表の数が何の数を表しているか答える問題について、表の適切な読み取りができていなかった。	・低学年から表の意味や、数値の読み取りを丁寧に行っていくことで定着できるようにする。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	44.2	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	50.8	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	63.3	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	65.1	67.2	64.6
観点	知識・技能	56.9	60.8	59.2
	思考・判断・表現	57.5	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○電流が同じ大きさの回路(並列つなぎ)を選ぶことはよくできている。授業の中で実験や観察を大切にできた成果が表れている。 ●簡易検流計の針のふれ方から分かることを答えることに課題が見られた。	・簡易検流計の針のふれ具合が電流の大きさを表すことへの理解が不十分であった。実験の過程や結果について振り返り、根拠を基に自分の言葉で説明する学習を意図的に取り入れていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○金属の温度と体積の変化について理解することができている。 ●仮説が正しかった場合の実験結果を選ぶことに課題が見られた。	・問題文の間違った仮説から得られる実験結果の図ではなく、正しい水の温まり方の図を選んでしまう傾向が強く見られた。実験の際には、予想を立て、その予想の場合にはどのような実験結果が得られるのかを、根拠を明らかにしながら考える時間を確保することで、単に実験結果を覚えるだけの授業にならないようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○春以外の季節の記録を選ぶ問題は、よくできていた。日常より自然に目を向けながら生活していることで、四季の変化について理解できていることが分かる。 ●腕を伸ばしたときの筋肉のようすを選ぶ問題では、正答率が低かった。	・筋肉のはたらきについて考えることができるのかを見る問題では、伸びる方と縮む方を逆に覚えてしまっている傾向が見られた。反復学習をしっかりと行いたい。 ・日常生活の中で起こる現象の原因を自分の言葉で分かりやすく説明する機会を意図的に作っていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○水の流れる向きを選ぶことはよくできている。 ●月の観察カードの書き方、月の動き方の理解について課題が見られた。	・月の動き方を理解しているかどうかを見る問題では、図に東西の位置が記されていないことから、月は時間がたつと、月の見た目の位置が高くなるという知識のみで回答している傾向が見られた。月は東から出て西に沈むという感覚だけの記憶にならないように、学んだ知識を生活の事象と結び付けられるような授業の展開に努める。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業を集中して受けている。」「学習で身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の肯定的回答は、県の平均よりも大きく上回っていることから、真面目に学習に取り組もうという意識が高いことが分かる。

○「学校のきまりを守っている。」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」の肯定的回答が県の平均を上回っていることから、児童が自分の役割を自覚し、けじめのある落ち着いた生活を送っていることが分かる。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る。」の肯定的回答は、県の平均を下回っている。真面目に学習には取り組んでいるものの、進んで意見を発表したり、難しい問題には、取り組む前に諦めたりしてしまう児童が多い。授業形態や展開を工夫することで、児童が意欲をもって進んで学習に取り組めるようにしたい。また、少人数授業を取り入れたり、児童の理解度に合った問題を選択できるようしたりするなど、自分でできたという達成感をもたせるような指導を工夫したい。

●「ふだん、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。」では、30%以上の児童が3時間以上と回答した。児童の実態を正しく把握し、個別に指導するだけでなく、家庭との連携を図り、時間の有効な使い方やゲームを長時間行うことの弊害を指導していきたい。

宇都宮市立国本中央小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
根拠を基に自分の考えを表現できる児童の育成	・自分の意見について必ず根拠を基に話すようにするために話型を提示したり、「どうしてそう考えたか」を問い直したりする。 ・授業の終末での振り返りの時間を確保し、文章で書けるようにする。	・話題に合わせて適切に自分の考えをまとめることはよくできていたが、式の中の数字が何を表しているのか、文章を読み取って内容に合う図はどれかを問われた問題での正答率が低かった。 ・記述式や短答式の解答方法による無解答率が高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科における調査で、国語では漢字の書き取り、算数では四則計算の順序など基礎基本とされる問題での正答率が低かった。	・基礎基本を定着させるための反復練習の時間の確保。	・単元の終末において反復練習の時間の確保。 ・朝の学習のステップアッププリントの実施。 ・家庭学習で反復練習を行うように家庭への啓発。